

舞行李 춤고리

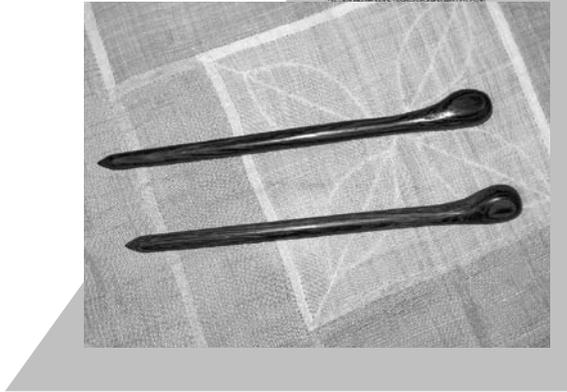
ピニョ・簪

良いものには消え去ることのない「心」がある

―早速ですが、ピニョ（簪）。
寿玉 前回のお話に出たので少し持ってきました。

―有り難うございます。ずいぶんいろいろな大きさや素材のものがありませんか。

寿玉 ピニョのデザインには竹と梅がよく使われます。ほかにも龍、鳳凰、ざくろ、胡桃などの模様がありますし、素材も、金、銀、七宝、宝石などを使ったものがあります。かつて池成子先生の生徒さんの一人がガラスで先生のために作って差し上げたピニョと言うのも素敵でした。



模様にはそれぞれ富貴、栄達、長寿、多産、愛、良い知らせ、などの意味があります。昔は、身分によって身につけられるものが違っており、例えば一般庶民は、木や、角、白銅、真鍮などを使いました。

―踊りで使うピニョは一般のものとは違いますか？

寿玉 李梅芳先生には梅の花のデザインのものを使うようにと言われていました。

―寿玉さんご自身のピニョの思い出は…？

寿玉 私は地方にいましたし、

周りにはハルモニ達くらいしかピニョをつけている人を見たことがありませんでした。韓国に行き来するようになってからもよく見かけたのはプレスして作ったような大量生産のピニョだけで、自分から「欲しい」と思うことはありませんでした。それでも、私が一番最初に手にしたのは銀製で七宝の飾りのついた竹のデザインのピニョです。

あまり使う機会がありませんでしたが、ハルモニ達がつけていた短い銀のピニョが私の心に残っていたのかもしれない。

―寿玉さんのお気に入りはどれですか？

寿玉 皆気に入っているのですよ（笑）。その時々に出会ったものからです。

―気に入ったピニョを差しているという思いは、踊りにも影響します。踊りは音楽の他に色々な思いやその場のエネルギーなどを貰って、初めて踊れるものから。

―その中で特に思い入れのあるものというと？

寿玉 そうですね… 二つあります。

まず。ひとつは、この玉（ぎょく）のピニョです。私の名前が寿玉だからというのではありませんが、どうしても玉のピニョが欲しいと思っていました。韓国に滞在していたとき、衣装の先生のお店のショーケースに飾ってあるこのピニョに出会いました。微かにグレーがかかった薄い草色が入った玉（オク）ピニョでした。品の良さの中に喜びも悲しみも、強さも弱さも、華やかさも侘びしさも、あらゆるものを兼ね備えているように感じました。「買える」とか「欲しい」とか言うのではなく「私

の」と思いました。このピニョも「私を買って」といつているのではなく「さあ、私はここで待っているから、いつでも買いにいらっしやい」と鎮座しているのです。それから幾度となくこのピニョに会いにそのお店に足を運びました。そこにまた「ある」のを見るだけで不思議に心が落ち着いたのです。いよいよ意を決して「買いに」行ったとき、そのケースからそのピニョは消えていました。お店の人に

わけを話すと特注で同じものを作ってくれることになりました。私が日本に戻るその間に、このピニョが出来上がって来たのです。当時は韓国に行ったら、あれも、これも、いろいろなものを買って帰ろうと思っていたのですが、もうそのときは、ほかのものは何にもいらぬ、と思っていました。このピニョを手に出来たことで本当に満足して帰ってきたのです。

―もうひとつは？

寿玉 この木のピニョです。木ピニョと言うのはあまりなじみが無いでしょうけれど、私も20年前前に、池成子先生の研究所でプクチュムの時に初めて見ました。その後も、そのシンプルで何の飾りも無

←次ページへつづく





「生きていく生き続けている」と強く感じた 固城への旅

なり、舞台上に照明がともった。
1部ではソウルなどでも活躍する現代舞踊のグループの公演が特設舞台でおこなわれた。2部になり舞台の前のマダンで固城五広大が始まった。

以下は趙富子さんの感想。

それぞれが仮面をつけていますが、私たちに、マルトウギは会長、あの面は河先生で、こちらはドンスちゃんと、すぐにわかりました。同じ踊りを踊っているのに、その人なりの特徴があり、自分の踊りを踊っているのです。

私たちがこの踊りを自由に踊れるには長い年月がかかりそうです。いよいよ年月をかけても果たして出来るのでしょうか？ 大きな課題です。

ピビと両班の仮面劇では、ピビが飛び上がる度に大歓声です。両班の河先生とピビのやり取りが絶妙で、言い回しが全部は聞き取ることが出来なかつたけれど、笑わせてくれて大盛り上がりでした。

以下は箱崎麻奈美さんの感想。
一番面白かったのは、ただ踊りや芝居を見せるというのではなく、観客と踊り手が一体となってその空間を創り上げているということ。

出演者が観客の子どもたちに絡み、観客も子どもからお年寄りまで声援を送ったり最後のティップリに参加していました。

以下は橋本幸子さんの感想。

何よりも感動したのは、ユーモラスに演じられる仮面劇に、観客の中から歓声上がり、爆笑の音が絶え間なく聞こえていたことだ。

老若男女がおなかを抱えて喜び合っている。言葉の意味など、ここでは用を成さない。いつの間にか、隣りのおばさんと肩をぶつけ合いながら笑い転げていた。クラ イマックスは、演じる人も、観客も、総立ちで乱舞。モダンダンスも、バレエも、学生もオバさんもケンガリのリズムに一体になって

いる。まさに「生きていく。生きつづけている」と強く感じた。伝統や伝承はガラスケースに入った化石ではない。先人たちの思いを胸に、今を生き、次世代に手渡していく。時には時代を生きた人々の魂が刻み込まれ、今この固城の空の下に響きあっている。

開演の1時間も前から椅子席に陣取って待っている年寄りたち。ティップリで練り出す老若男女。我々の帰りのバスに乗り込んできて、狭い通路で踊り出した年寄りたち。固城五広大はこうした、踊りを楽しみ生活の中で自分のもとのしている多くの人々に支えられているということを、今回の旅行では実感させられた。

←前ページより
いピニヨが気に入って僧舞(スラム)や小鼓舞(ソゴチュム)を踊るときに使いました。2003年のトムトムのチャリティーコンサートで練習生たちと一緒にプクチュムを踊るときに、どうしても木ピニヨを使いたくなりませんでした。けれどどこにも売っていません。



(まとめ・津留由人)

このピニヨは：練習生の人

人が、ファイヤーウッドと言う堅い木を削って、心を込めて私達皆のために6本作ってくれたものなのです。

—どちらも「物」ではなくて手放すことの出来ない「思い」があるのですね。

寿玉 ええ。「良い物」には技術の中にそれを作った人の「心」が込められているのを感じます。それが値段や素材や技術の良し悪しを超えた「品格」を感じさせます。それを創り出したり、身に着けることで表される「込められた思い」があると思います。

* * *

玉は軟玉(ネフライト)のことで、翡翠(硬玉)ジュエイト)とは区別される鉱物です。色は、半透明の乳白色から、翡翠に近い緑色まで幅広く彫刻などの細工に適した鉱物です。

(まとめ・西方恭子)

五方舞

夏の風物詩

참외
チャメ



참외 (チャメ) というのは真桑瓜のことである。1976年夏のある日の夕方、軍事独裁政権のまったただ中、私は束草(ソクチョ)の市場をぶらついて

市場には垢にまみれた精神薄弱の乞食がいた。言葉もまま成さずに「ああ」とか「おお」という声しか聞こえなかった。乞食は、薄い緑の縞が入った참외 (チャメ) を売っている男に泣きついた。後ろで女将さんが、「絶対にやるんじゃないよ」といって、睨みをきかせている。乞食は泣きながら頼み続ける。참외 (チャメ) 売りの男は、「よし、お前歌を歌え。うまく歌えたら、これをやる」といった。なんて嫌な奴だと、私はそのとき思った。やるのならすんなりやればよい。どうして知恵の遅れたものをいたぶるようなことをするのだろうかと感じた。乞食は仕方なく泣きながら歌い始めた。「そう、そう」と참외 (チャメ) 売りは頷く。やがて、「ほれ、もっと大きな声で歌え」といいながら、両の手に참외 (チャメ) を持って乞食と一緒に歌いながら踊り始めた。それまでべそをかいていた乞食は興に乗り、手を叩き大きな口

を開けて、笑顔で歌う。市場のあちこちから声が掛かり、참외 (チャメ) 売りは참외 (チャメ) を持ったまま大きく踊りながら歌った。背中を電気が走った。いたぶるどころか참외 (チャメ) 売りは知恵遅れの乞食と共に生きていた。

歌が終わると참외 (チャメ) 売りは、「よう歌(うた)うた」と右手に持っていた참외 (チャメ) を乞食の左手に乗せた、そして左手に持っていた참외 (チャメ) も、「これも持って行け」と右手に乗せた。それを見ていた女将さんは後ろで目をむく。「まったくあんたは」「いいから、いいから」と참외 (チャメ) 売りは女将さんをなだめた。乞食は笑顔で市場をよたよたと出て行く。市場は何事もなかったかのようになり、もとの日常に戻った。その日、私は初めて韓国を韓国として見る事が出来たように思った。(李起昇)



設立総会報告

去る7月10日、趙寿玉チュムパンの会設立総会が行われました。参加人数は23名、委任状は5名で、過半数を大幅に上回り、総会は成立。議長に牛久保氏が選出され、五つの議案が審議されました。

- 第1号 趙寿玉チュムパンの会設立の件
 - 第2号 趙寿玉チュムパンの会会則の件
 - 第3号 当初の資産の件
 - 第4号 平成16年度事業計画および収支予算の件
 - 第5号 役員の件
- すべての議案は承認され、最後に議事録署名人が選出され、趙寿玉チュムパンの会が正式に設立しました。
- 趙寿玉さんより一言「4年8ヶ月韓国にいて、日本に戻って10年。半年は一人で練習し、それから徐々に一人、二人と教え始めました。私も含め皆さんが韓国の舞踊・芸能に触れながらまた、他の分野の方とも接触してより視野を広げ、それぞれが豊に、自分の表現ができるようになっていければいいなあと、思っています。本日は舞踊をしてない方にも参加頂き有り難うございました」(朴信江)

掲示板



モツチェンイ

韓国伝統舞踊の世界
村上由朗写真展

10月8日(金)〜15日(金)
10日(日) 11日(月) お休み
ギャラリー・アートグラフ (写真弘社)

中央区銀座2-9-14
電話03-35338-6630
<http://www.shashinkosha.co.jp/gallery/>

舞踊家趙寿玉氏とその仲間たちが連日会場で舞います!

8日、9日の公演のみ、協力券(¥1500 30人限定)
尚、最終日は舞踊公演はございません。

李明姫伝統音楽の調べ

12月3日(金)
開場6時 開演6時30分
スペースDO(ドウ)
前売り3000円 当日3500円
主催・問合せ
韓国伝統楽器専門店
BBB ビー・ビー・デー
電話03-53330-2230





金蔵万燈会 一粒のともしび特別公演 天空の舞

奥能登にある金蔵は海から少し小高い山に入ったところにある、小さな盆地だった。タクシ―ののって向かっていると、その景色のすばらしさに、久しぶりに心底心躍り、今までの長かった道のりの大変さはどこかへ行ってしまった。棚田の美しいこと、また木々の緑が濃く鮮やかなこと。

それにしても、日本にこんな豊かな里山がまだあったのかと本当に驚いた。金蔵という集落には公共交通機関がない。回りを見渡すと、木造の素敵な家ばかり。その数80数戸。大きな立派なお寺が5つ。一向一揆の名残か、5つあるお寺の内4つは真宗大谷派、1つは真言宗だった。

その昔、山岳信仰（白山信仰）で栄えた大きなお寺がこの土地、金蔵にはあったそうだ。白山の麓にある盆地、金の鶴が舞い降りた土地、さらに母親の胎内にいるのと同じ感覚になると言われている土地：また、16世紀に全村焼き打ちにあった事もあるといふ。その魂を供養しようと金蔵万燈会をはじめた、そう力説して下さったのが今回の金蔵万燈会の主催である、NPO法人金蔵学校の石崎さんだ。

8月16日。金蔵の送り火は全く！ 幻想的だ。あぜ道に、家の前に、お寺に、集落中に2万个もの蠟燭が灯され、みなで先人の魂を送り出す。一つ一つが手作り。どこからともなくぞくぞくと人が集まり、小さな子供からおじいちゃんまで、みんなでのんびり散歩をしながら蠟燭を灯していく。日が沈む頃になると、風物（ブームル）の一行が集落を練り歩き、万燈会がはじまった。屋外の舞台では、様々な公演が順々に行われていく。趙寿玉先生のサルプリから始まる天空の舞の出番が近づくと連



舞踊教室だより
目標はしぶくかつよく
幡ヶ谷社会教育館
2004年6月3日（木）
練習内容
途中から来たので前半はわかりませんが
○ソゴチュム
○手足基本
○プチエチュム などなど
初めて書きます。こんなノートがあることをはじめて知りました。皆さんの文章はそれぞれに興味深いことがあり、楽しく読ませていただきました。昨年10月ごろに習い始め、早8ヶ月たっていたのですね。いっこうに順番が覚えられず、先生には迷惑をかけたばなしですが、がんばろうと思っております。みなさま、ご指導よろしく願います！

石崎さんは、この万燈会にもっと多くの人にきてもらいたい。蠟燭の数を6万个までふやし、隣の集落や村にも広めていきたい、と語ってくれた。これは来年も行かなければ！！
(吉村恵理子)

当面の目標は順番を覚えることですが、目標は「しぶくかつよく」です。内側からにじみでるように表現したり強弱をつけたり（↑これが一番苦手です）は日々の練習が大切なのでしょうね。家では家族にちやかされ、壁に天井にぶつかりながらの練習ですが、今後もつづけようと

思います。
(秋美里)